



2026年4月14日

各位

会社名株式会社アクアライン
代表者の役職・氏名 代表取締役社長 楯 広長
(コード番号: 6173 東証グロース)
問合せ先 人事総務部次長 阿部 直之
(TEL. 03-6758-5588)

2026年2月期連結業績予想値と実績値との差異

及び2026年2月期個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

2025年12月1日に公表しました2026年2月期(2025年3月1日~2026年2月28日)の連結業績予想値と本日発表の実績値との間に下記の通り差異が生じたのでお知らせいたします。

また、2026年2月期(2025年3月1日~2026年2月28日)の個別業績について、前期実績値との間に差異が生じたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 2026年2月期連結業績予想値と実績値との差異(2025年3月1日~2026年2月28日)

	売上高	営業利益 (△損失)	経常利益 (△損失)	親会社株主に帰属 する当期純利益 (△損失)	1株当たり 当期純利益 (△損失)
前回発表予想(A)	百万円 1,980	百万円 △301	百万円 △301	百万円 △494	円 銭 △71.13
実績値(B)	1,834	△419	△465	△707	△96.85
増減額(B-A)	△146	△118	△164	△213	
増減率(%)	△7.4	-	-	-	
(ご参考) 前期実績 (2025年2月期)	3,462	△399	△391	△346	△93.90

2. 差異の理由

2020年2月期以来、連結営業損益・連結営業キャッシュフローの赤字から脱却出来ない状況が継続している当社の事業を抜本的に見直すため、2025年5月に開催の定時株主総会で経営陣を一新して以降、まずは広告宣伝費やその他の費用の削減・適正化に取り組みました。

広告宣伝費の中でも、特にリスティング広告の徹底的な絞り込みを行う方針とし、入電数・訪問数が対前期（2025年2月期）比及び期初計画比で大幅に減少し、2025年12月1日付で売上高、営業損益、経常損益、及び親会社株主に帰属する当期純損益を大幅に下方修正しておりましたが、今回、「水まわりサービス支援事業の売上高が前回発表予想を下回ったこと」、及び「水まわりサービス支援事業において営業費用として貸倒引当金及び在庫評価損を計上したこと」から、営業損失が、前回発表予想の△301百万円に対し、△419百万円の実績となりました。

事業セグメント別の状況としましては、「水まわりサービス支援事業」につきましては、顧客獲得のための広告宣伝費用は、2025年12月1日に発表しました2026年2月期の前回予想の約9億円（全て売上原価での費用計上に表示）から概ね変わらない一方で、入電数が2025年12月1日に発表しました2026年2月期の前回予想の6,200件/月から6,477件/月と増加したものの、訪問数が2025年12月1日に発表しました2026年2月期の前回予想の3,900件/月から3,822件/月と減少し、また、貸倒引当金及び在庫評価損を計上したことから、売上高は1,550百万円、営業損失は△370百万円の実績となりました。また、「広告メディア事業」につきましては、売上高は283百万円、営業損失は△49百万円の実績となりました。

経常損失につきましては、上記の営業損失の修正に加え、訴訟関連費用15百万円、再構築関連費用9百万円、資金調達に伴う新株発行費10百万円等の計上により、前回発表予想の△301百万円に対し、△465百万円の実績となりました。

また、親会社株主に帰属する当期純損失につきましては、上記の経常損失の修正に加え、事業所閉鎖損失38百万円等の計上により、前回発表予想の△494百万円に対し、△707百万円の実績となりました。

（ご参考1）事業セグメント別の前回発表予想及び実績

（単位：百万円）

セグメント		前回発表予想 (A)	実績 (B)	増減額 (B-A)
売上高	水まわりサービス支援事業	1,700	1,550	△150
	広告メディア事業	280	283	+3
	合計	1,980	1,834	△146
営業利益	水まわりサービス支援事業	△264	△370	△106
	広告メディア事業	△37	△49	△12
	合計	△301	△419	△118

（ご参考2）「上期実績」及び「下期実績」

（単位：百万円）

	売上高	営業利益 (△損失)	経常利益 (△損失)	親会社株主に帰属 する当期純利益 (△損失)
上期実績 (10月15日公表)	1,115	△213	△213	△412
下期実績 (本日公表)	719	△206	△252	△295

通期実績 (本日公表)	1,834	△419	△465	△707
----------------	-------	------	------	------

3. 2026年2月期個別業績の前期実績値との差異

	売上高	営業利益 (△損失)	経常利益 (△損失)	当期純利益 (△損失)	1株当たり 当期純利益 (△損失)
前期実績値(A) 2025年2月期	百万円 3,229	百万円 △348	百万円 △339	百万円 △511	円 銭 △120.67
当期実績値(B) 2026年2月期	1,646	△381	△429	△669	△91.74
増減額(B-A)	△1,583	△33	△90	△158	
増減率(%)	△49.0	-	-	-	

4. 差異の理由

売上高については、集客のためのリスティング広告を中心とした広告宣伝費の徹底的な絞り込みを行った結果、入電数が6,477件/月、訪問数が3,822件/月と、対前期（2025年2月期）の11,956件/月、6,111件/月から大幅に減少し、3,229百万円から1,646百万円に減少いたしました。

また、売上高の減少に伴い営業損失が増加し、訴訟関連費用・業務委託費・新株発行費等を営業外費用に計上したこと、前期に特別利益に計上した事業譲渡益が当期では計上されなかったこと等の結果、前期の当期純損失△511百万円に対し、当期の当期純損失は669百万円となりました。

以上